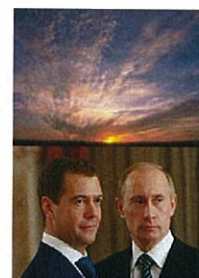


外交・安保サマーセミナー

「新しい国際秩序を模索する世界と日本」

主催：特定非営利活動法人ユーラシア21研究所



外交・安全保障に関心を持つ皆様へ

唯一の超大国である米国は対テロ戦争で疲弊し、世界的規模の未曾有の金融危機の発信地となって、超大国としての地位が揺らぎつつある中、オバマ新政権下でどのような世界戦略を展開していくのでしょうか。また、エネルギーを武器に着実に国力を回復するロシア、深刻な内部矛盾を抱えながらも地域大国としての地位を固めさらに資源を求めて世界に進出する中国、核開発を断固継続させて米国と対峙するイラン、巧みな外交で大国を翻弄し、核開発を着実に進める北朝鮮は、それぞれどのような国家戦略を推し進めるのでしょうか。そしてますます不安定さと複雑さを増す21世紀前半の国際情勢の中、いったい日本はどのような外交・安全保障政策をとるべきなのでしょうか。

このたび、特定非営利活動法人ユーラシア21研究所は、昨年に引き続き「新しい国際秩序を模索する世界と日本」をとことん議論する外交・安保サマーセミナーを開催いたします。国際政治や安全保障を真剣に学ぶ学生、国際ビジネスの最前線で活躍するビジネスマン、外交や安全保障の第一線で活躍した元外交官や自衛官、この分野の最新動向を研究する研究者たちが、世代を超えて集い、夏の伊豆高原で2泊3日、世界と日本について議論を深め、横と縦のネットワークを広げようという企画です。国際情勢を真剣に学びたい方のご参加をお待ちしています。

特定非営利活動法人ユーラシア21研究所理事長 吹浦忠正
「外交・安保サマーセミナー」実行委員会委員長 菅原 出

日時 2009年9月25日（金）午前10時
～9月27日（日）午後3時30頃までを予定

場所 シースケープ伊豆高原（静岡県伊東市八幡野字ニタ1131-62）
・伊豆急行線伊豆高原駅より徒歩約20分/駅前よりタクシー利用可

参加資格 外交・安全保障に関心を持つ国内の大学生・大学院生・社会人

参加費（2泊3日の宿泊費・食費込み） ・参加費は当日セミナー施設にて徴収いたします
大学生・大学院生 6000円
社会人 10000円

特定非営利活動法人ユーラシア21研究所 <http://www.eri-21.or.jp>



セミナー・プログラム

- ・横須賀の海上自衛隊施設内における研修(施設見学・幹部との懇談など)
- ・参加者全員が議論を行う全体会と10の分科会で構成
- ・参加者はポリミリ(ロールプレイ)で登場する6カ国(日本・米国・韓国・ロシア・中国・北朝鮮)のチームに分かれて演習を行う

講師(敬称略・順不同)

秋田 浩之	日本経済新聞編集委員	岡本 智博	元航空自衛隊・空将
坂本 正弘	元中央大学教授	神保 謙	慶應義塾大学准教授
鈴木 邦子	岡崎研究所主任研究員	松井 健	元航空自衛隊・空将補
古澤 忠彦	元海上自衛隊・海将	保井 俊之	慶應義塾大学教授
横田 徹	フォト・ジャーナリスト	吉崎 達彦	双日総合研究所副所長

※セミナーのプログラム・講師はこちらの都合により変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

9月25日(金)午後

分科会1-1 「戦略の基礎を考える」

「国家戦略」とはそもそも何だろうか？ 経済や外交安全保障政策と国家戦略との関係はどのようなものなのだろうか？ 国家戦略を決める要件とは？ 国家の利益を守り、促進するための総合戦略をどのように立てるべきなのか？ 国防の第1線で活躍する実務家が現場体験を基にわかりやすく解説します。

分科会1-2 「インテリジェンスと情報操作」

インテリジェンス、スパイ、工作、謀略、CIA・・・、分かっているようでよくわからない。一体「インテリジェンス」って何なのか？ その役割や政策立案者との関係はどのようなものなのだろうか？ そしてわれわれが「情報」を収集し、分析する際に、どんなことを心がけなければならないのか？ インテリジェンスのメカニズムを概観すると共に、日々あふれる情報の洪水の中で、「情報操作」されることなく的確な情報を見極めるためにどうすればいいのかを探る実践的インテリジェンス論。

分科会1-3 「外交とは何か？」

外交はそもそも何のために行うのか？ 外交を行うためのツールには何があるのだろうか？ 外交力を支える要素とは何だろうか？ 外交の現場を経験した講師が、基本的な概念を整理し、実践的外交の基本をしっかりと教えます。

分科会1-4 「日米安保と自衛隊－日本の防衛力－」

北朝鮮という爆弾を抱える東アジアの安全保障環境は、昨今益々不安定になっています。朝鮮半島有事も絵空事ではありません。でも、万が一のとき、日本の自衛隊にいったい何ができて、何ができないのでしょうか。日本の安全保障を支える自衛隊と日米安保体制の現状と問題点を鋭く探ります。

全体会1-1 「世界の潮流 日本の課題」

米国発の金融ショックと世界規模の大不況。オバマ政権の誕生と関与政策を軸にした米国の新しい国際協調外交。危機をエスカレートさせる北朝鮮とイラン。いったい世界はどこに向かって進んでいるのでしょうか。経済と安全保障の「複眼」で、世界のトレンドと日本の課題を論じます。

全体会1-2 「米国覇権の現状と展望－英米覇権交代の経験から－」

21世紀初頭、世界政治・経済関係の激動は、米国覇権にどんな影響を与えるのでしょうか。巷には「米中二極体制」を憂える声もありますが、19世紀以降の英国から米国への覇権交代プロセスと比較すると、類似する面もあれば大きな差があるのが現状です。「国際システム」の視点から今の世界を考察し、今後の展望を試みます。

9月26日(土)午前

分科会2-1 「日本の領域防衛」

我が国の防衛は、「領域防衛」の概念でとらえなおす必要があります。海から守られた我が国の安全保障から、海を守ることで領域と国土の安全保障を考える必要があることを解説します。「国土、国民、主権」を日本と日米同盟で如何に守るべきか、中国の海洋進出と我が国離島への脅威の顕在化と併せて考える材料を提供します。

分科会2-2 「北朝鮮の経済貿易動向」

国家安全保障戦略を立てる場合、プロファイリング、ファクトファインディング、数値分析、シナリオ分析などのインテリジェンス手法を用い、正確な状況把握を行うことが出発点となります。その実例として、このところ累次の経済制裁が国連安保理決議により実施されている北朝鮮の経済貿易動向の変化を実際に俯瞰し、制裁の効果について議論を深めます。

分科会2-3 「日米中 三国外交の舞台裏」

米国と中国という大きな二つの山に挟まれた日本。この三国は、東アジアの政治、経済、安全保障をめぐる、日々激しい外交戦を展開しています。この三国はそもそもどのような利害関係、対立関係にあり、それぞれどのようなグランド・ストラテジーを持っているのでしょうか。外交の生々しい舞台裏を紹介し、日本の進むべき道を考えます。

9月26日(土)午後

分科会3-1

「金融インテリジェンスの誕生と発展---テヘランと平壤への視点を中心に---」

現代の国家安全保障は、国際金融や通貨システムの理解なしには語れません。1990年代以降次々と世界を揺るがした3つの出来事---金融市場の深化とグローバル化の進展、9-11テロの発生、2007年からのグローバルな金融危機---はいずれも、多くの国で国家安全保障政策の大きな転換点となったばかりでなく、インテリジェンスの新たな形である金融インテリジェンスをも誕生させ、発展させました。では、金融インテリジェンスとは何でしょうか。

この分野の第一人者が、金融インテリジェンス先進国・米国の事例等を参考に、事実に基づいた分析と展望を行います。

分科会3-2 「オバマ政権の核戦略」

「核兵器のない世界を」と訴えたオバマ大統領の本当の狙いは何でしょうか。そもそも国家はなぜ核兵器を持ちたがるのでしょうか。米国は核兵器をどのように位置づけ、これからこの危険な兵器とその技術をどのように管理しようとしているのでしょうか。新しい時代の世界の核をめぐる動向を詳しく解説します。

分科会3-3 「朝鮮半島をめぐる戦略地政学」

北朝鮮の核問題で不安定化する朝鮮半島。この問題の根深い背景を知るには、金王朝の特殊な体制に関するミクロの政治分析だけでなく、この半島が海洋国家勢力（シーパワー）と大陸国家勢力（ランド・パワー）の力の緩衝地帯に位置するという戦略地政学的な視点が不可欠です。中国がなぜ北朝鮮を庇い続けるのか、韓国やロシアなどの近隣諸国がなぜ北の崩壊を望まないのか、アメリカが中国を頼らざるを得ないのはどうしてなのか？歴史的、地政学的、そして文明史的視点（関係国間の歴史的相互作用分析）から、朝鮮半島を巡る主要関係国間の相互不信の構図が、結果的に現状維持（地域安定）へ作用する“安定のパラドックス”を解き明かします。

9月27日(日)

「ポリミリ(ロールプレイ)事前説明」

- ・ポリミリの概要説明
- ・アドバイザー紹介(各チーム1名)

ミニ分科会

- ・各国チームごとに戦略を練る際に、それぞれのアドバイザー以外に各国の外交安保政策など個別の事例についてアドバイスを受けることができる時間です。
- ・同時に、個人的に分科会で聞くことのできなかった話、疑問に思った点などをすべての講師に質問することができます。しかし、時間と分科会の数が限られていますので、各チームごとに戦略的になるべく多くの分科会から情報を得ることが求められます。

ミニ分科会の例

- 1 「日本の安全保障」
- 2 「日米中関係と日本外交」
- 3 「北東アジアの海洋安全保障」
- 4 「朝鮮半島をめぐる安全保障情勢」
- 5 「オバマ政権の外交戦略」
- 6 「国際安全保障」
- 7 「インテリジェンス」

全体会2-1 パネルディスカッション

全体会2-2

「オバマの戦争—第二次アフガン戦争の行方」

2001年の開戦から2009年10月で8年を経過するアメリカのアフガン戦争。オバマ政権はこのアフガン戦争を外交・安保政策の最優先事項に掲げて取り組んでいます。ブッシュ時代の政策とオバマ政権の政策は何がどのように違うのでしょうか？アメリカはアフガニスタンをどうしようとしているのか？オバマ政権のアフガニスタンに対する新戦略を解説します。

「アフガン戦争最前線—従軍記者が見た米軍とタリバン—」

オバマ政権が安全保障戦略の最重要課題として位置づけるアフガニスタン。そこで米軍は今も激しい戦闘を繰り返しています。日本ではほとんど知らされることのない、「対テロ戦争」の実態を映像と写真でお伝えします。2009年8月の従軍取材の様態を本セミナーにて初公開する予定です。

講師・事務局スタッフの略歴(敬称略)

岡本 智博(おかもと・ともひろ)

ユーラシア21研究所軍事問題主任研究員・元空将

防衛大学校(第11期)卒業後、航空自衛隊に入隊。航空幕僚監部、航空総隊司令部等勤務を経て1981年に防衛白書執筆担当。在ソ連邦防衛駐在官、航空開発実験集団司令官、統合幕僚会議事務局局長を経て2001年に航空自衛隊を退官。NEC顧問等を経て現職。最近の著書として「自衛隊の現場から見る日本の安全保障」(共著、自由国民社)、「イラク戦争」(共著、芙蓉社)等、その他論文多数。

坂本 正弘(さかもと・まさひろ)

日本戦略研究フォーラム副理事長

東京大学卒業後、経済企画庁へ入庁。退官後は中央大学総合政策学部教授(1993-2002)などを歴任。専門は国際関係論(中央大学総合政策博士)。主要な著書には、『ボックス・アメリカナの国際システム』(有斐閣)、『中国・分裂と膨張の3000年』(東洋経済新報社)、『ボックス・アメリカナと日本』(中央大学出版部)などがある。最近の論文としては、「米軍再編と日米同盟新紀元」時事通信社『世界週報』05年7月5日号、「再考・基軸通貨。ドルの行方」日本経済新聞『経済教室』08年2月20日、「サブプライム問題とドル体制」世界経済研究協会『世界経済評論』08年3月号がある。

鈴木 邦子(すずき・くにこ)

岡崎研究所主任研究員

慶應義塾大学卒業後、ヨーロッパ大学にてMBA(経営学修士)、トゥルーズ大学にて政治学前期博士号(DEA)取得。慶應義塾大学法学研究科博士後期課程単位取得退学。1989年から1997年まで外務省および国会議員事務所等に勤務、その後政策研究院大学院大学および東京大学先端科学技術研究センターでの勤務を歴任。

松井 健(まつい・けん)

ディフェンスリサーチセンター研究委員・元空将補

1971年防衛大学航空工学卒、航空自衛隊・RF-4E偵察士・情報関係職域、外務省出向、ジュネーブ防衛駐在官、内閣情報調査官、空将補で退官。山田洋行顧問、日本戦略研究フォーラム政策提言委員、ディフェンスリサーチセンター(DRC)研究委員、日米空軍友好協会幹事、アジアの平和実行委員会事務局長等。安全保障・国家戦略等の研究活動の傍ら、国際緊急援助隊構想を提唱。

吉崎 達彦(よしざき・たつひこ)

株式会社双日総合研究所副所長・主任エコノミスト

一橋大学卒業後、1984年に日商岩井(現双日)入社、米国ブルッキングス研究所客員研究員、経済同友会調査役などを経て現職。ホームページ「溜池通信」を運営し、テレビ朝日系『サンデープロジェクト』のコメンテーターなどを務める。主な著書は「オバマは世界を救えるか」(新潮社、2009年)、「アメリカの論理」(新潮新書、2003年)、「1985年」(新潮新書、2005年)。

秋田 浩之(あきた・ひろゆき)

日本経済新聞社編集局政治部次長兼編集委員

1987年に日本経済新聞社に入社し流通経済部に配属。92年に米国・ボストン大学大学院終了(国際関係論)。東京編集局国際部を経て、94年～98年北京支局、98年～2002年政治部、2002年～06年ワシントン支局。06年9月～07年7月ハーバード大学日米関係プログラム研究員。著書に「暗流一米中日外交三国志」(日本経済新聞出版社、08年)がある。

古澤 忠彦(ふるさわ・ただひこ)

安全保障懇話会理事長・ユーラシア21研究所客員研究員等

長崎東高校卒、防衛大学校(8期)昭和39年卒。元海上自衛隊 海将。護衛艦艦長・司令、統合幕僚会議事務局長、舞鶴地方総監、横須賀地方総監をそれぞれ歴任し、1998年に退官。三井造船(株)顧問を2007年に退職し、現職。

保井俊之(やすい・としゆき)

慶應義塾大学院システムデザインマネジメント研究科(SDM)教授

専門は財政・金融・通貨システムや国際金融アーキテクチャを中心とする社会中枢システム論。85年に東京大学教養学科(国際関係論分科)卒。爾来、財政金融系行政官、国際機関職員、外交官、シンクタンク主任研究員等を歴任。07年中央大学客員教授、08年金融庁参事官を経て、09年より現職。著書に「中台激震」(中央公論新社・単著)、「世界経済を読む」(東洋経済新報社・共著)等。

神保 謙(じんぼ・けん)

慶應義塾大学総合政策学部准教授

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了(政策・メディア博士)。日本国際問題研究所研究員、日本国際フォーラム研究主幹、慶應義塾大学総合政策学部専任講師を経て現職。専門は国際安全保障論、アジア太平洋の安全保障、東アジア地域主義、日本の外交・安全保障政策。

主な著作に『日本の国際政治学:学としての国際政治』(共著、有斐閣、2009年)、『新しい安全保障を考える』(共著、自由国民社、2004年)、『アメリカと東アジア』(久保文明・赤木莞爾編、慶應義塾大学出版会、2004年)、『アジア太平洋の多国間安全保障』(共著、日本国際問題研究所、2003年)など多数。

柿原 国治(かきはら・くにはる)

防衛省航空幕僚監部防衛部防衛課編成班長

防衛大学校(国際関係論)昭和63年卒業。筑波大学大学院地域研究修士課程修了。米国防総合大学国家戦略大学国家安全保障戦略修士課程修了。外務省国際情報局、(財)世界平和研究所主任研究員、第6高射群第21高射隊長(車力分屯基地司令)を歴任。主要論文に「核抑止理論再構築と弾道ミサイル防衛を巡るパワー・ゲームー新たな戦略転換期における我が国の対応」、「対中戦略のあり方ー中国との付き合い方の原則」、「朝鮮半島問題の地政学的分析と我が国の対応ー北朝鮮の核・弾道ミサイル脅威へ如何に対処すべきかー」等

横田 徹(よこた・とおる)

フォトジャーナリスト

1971年茨城県生まれ。97年よりフォトジャーナリストとしてカンボジア内戦を取材。

その後、タイのバンコクを拠点にアジア、ヨーロッパ、中東、アフリカを取材。国内外で高く評価されている。現在は激戦の続くアフガニスタンへの取材をメインに活躍中。現場主義を貫く数少ないカメラマンのひとり。

吹浦 忠正(ふきうら・ただまさ)

NPO法人ユーラシア21研究所理事長

早稲田大学大学院修了。国際赤十字バングラデシュ・ベトナム各駐在代表、末次一郎事務所長、難民を助ける会副会長、埼玉県立大学教授などを経て、現在、拓殖大学客員教授、東洋英和女学院大学大学院非常勤講師、難民を助ける会特別顧問、(社)協力隊を育てる会参与、安全保障問題研究会代表世話人、財団法人献血供給事業団監事、日本国際フォーラム評議員など。著書は、『平和の歴史』(光文社新書)、『難民—世界と日本』(日本教育新聞社)、『国旗で読む世界地図』(同)、『赤十字とアンリ・デュナン』(中公新書)、『NGO海外ボランティア入門』(自由国民社)、『にっぽん国際人流志』(同)、『ロシアへの反論(共著)』(同)、『歌い継ぎたい日本の心—愛唱歌とっておきの話』(海竜社)、『捕虜の文明史』(新潮選書)。『捕虜たちの日露戦争』(NHK出版)、『戦陣訓の呪縛—捕虜たちの太平洋戦争(監訳)』(中央公論新社)、『社会人の社会科』(祥伝社)、『従軍看護婦たちの大東亜戦争』(祥伝社)など多数。国旗関係だけで、本やかるた、パズル、マンガは累計30余冊。

菅原 出(すがわら・いずる)

「外交安保サマーセミナー」実行委員会委員長・国際政治アナリスト

1969年東京生まれ。中央大学法学部政治学科卒。平成6年よりオランダ留学。同9年 アムステルダム大学政治社会学部国際関係学科卒。国際関係学修士。在蘭日系企業勤務、フリーのジャーナリスト、東京財団リサーチフェローを経て、現在は国際政治アナリスト。英国危機管理会社の役員もつとめる。米国を中心とする外交、安全保障、インテリジェンス研究が専門で、著書は『アメリカはなぜヒトラーを必要としたのか』(草思社)、『外注される戦争—民間軍事会社の正体』(草思社)など多数。最新刊『戦争詐欺師』(講談社)は第8回新潮ドキュメント賞の候補作品に選ばれる。

伊藤 弘太郎(いとう・こうたろう)

「外交安保サマーセミナー」実行委員会事務局担当

中央大学大学院総合政策研究科博士前期課程を修了後、衆議院議員秘書、韓国留学、財団法人日本国際交流センター勤務、2007年より独立行政法人経済産業研究所リサーチ・アシスタントを経て、2008年～09年まで高麗大学校一民国際関係研究院訪問研究員として在籍。専門は韓国の外交安全保障政策。

部谷 直亮(ひだに・なおあき)

「外交安保サマーセミナー」実行委員会事務局担当

拓殖大学大学院博士課程に在学中。社団法人国際情勢研究会非常任研究員、岡崎研究所フェローを兼任。専門は米国政軍関係、米国国防政策。

9月27日(日)午前

全体会3「ポリミリ(ロールプレイ演習)」

ポリミリとは、外交をテーマとした戦略ゲームで、米国では政府機関、大学、シンクタンクなどで盛んに行われています。こうした戦略ゲームを行う目的は、実際の危機的な状況への対応、そして危機的な状況下での外交オプションの検討という二つの行動を強化するために行われます。

本セミナーにおいては、米中二極へと進む東アジアにおける北朝鮮のエスカレーションに対して、政権交代後の日本がどのような対処をするのか。そして、わが国がそうした状況に対してどのような外交および抑止力の保持を行っていけばよいのかをロールプレイによって検証します。

皆さんはそれぞれ各国の首脳、閣僚、その他政府関係者となって、危機のエスカレーションを防ぐと共に、自国の国益を極大化してください。逆に危機を防ぐことに注力するあまり、国益を害することも避けなければなりません。皆さんは、実際に割り当てられた役のキャラクター、その国の状況を理解した上で役になりきってください。講師の先生方のアドバイスを受けながら現実的なものを目指します。

※シナリオ内容については変更する場合がありますので、ご了承下さい。



スケジュール

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
9月25日(金)				10:15-11:15 C万横須賀駅集合 海自指揮官との懇談	11:15-12:30 横須賀海自施設見学	12:30 艦上昼食会	13:15 バス移動			16 到着・受付 開会式	16:30-18:30 全体会1		18:30 夕食	休憩・入浴	20:00-22:00 分科会1-1 分科会1-2 分科会1-3
9月26日(土)		8:00 朝食	9:00 全体会	9:30-11:30 分科会2-1 分科会2-2 分科会2-3		12:00 昼食	休憩	13:00-15:00 分科会3-1 分科会3-2 分科会3-3		15:00-17:30 ロールプレイ説明 個別相談・ミニ分科会	18:00 夕食	19:00-22:00 全体会2&懇親会			
9月27日(日)	7:30 朝食	8:00-11:30 ポリミリ(演習・ロールプレイ)				昼食	12:10-15:30 ポリミリ(演習・ロールプレイ) デブリーフィング 閉会式		解散						



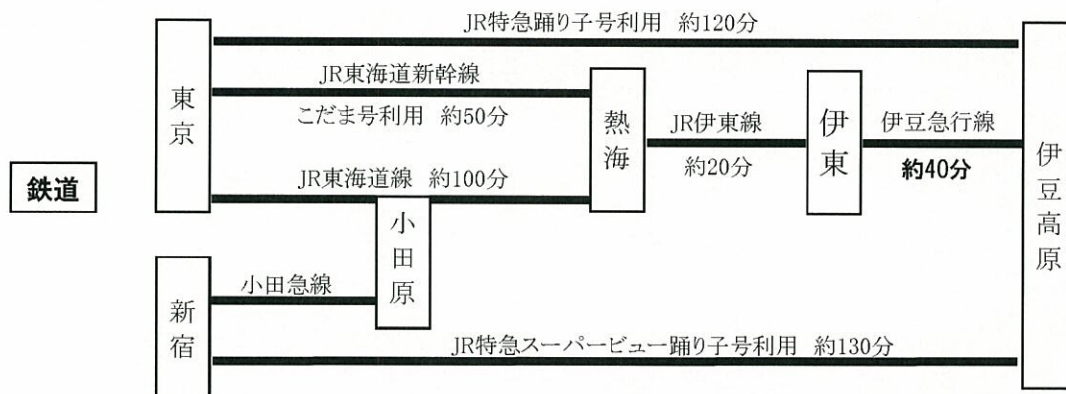
当日集合場所・会場までの交通

行き ・9月25日(金)午前9時45分 JR横須賀駅改札前集合(海自バスにて施設内に移動)

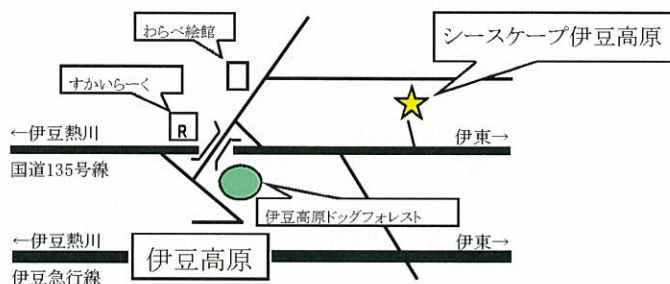


・9月25日(金)午後1時15分 海上自衛隊施設を出発(途中休憩あり)

行き(途中参加の場合)&帰り



会場付近の略図



参加希望分科会について

分科会の枠が一つ増えたため、改めて皆様に分科会の希望をお聞きします。
お手数をおかけしまして誠に恐縮ですが、下記e-mailアドレス宛てに9月23日(水)
午後6時までに送付してください。

gaikoanpo@gmail.com

※お返事がない場合はこちらで参加分科会を決定しますので、あらかじめご了承ください。

参加希望分科会()の中に第1希望から第3希望(25日のみ第4希望まで)の順で記入

1(25日)－()・()・()・()

2(26日午前)－()・()・()

3(26日午後)－()・()・()

注意事項

服装

セミナー会場ではカジュアルで結構です。

海自施設を見学する際には、スカート・釘打靴・ヒールの高い履物・サンダル等を避けていただき、動きやすい服装でお越しください。

セミナーにおける発言について

講師及び参加者の所属・氏名・発言は原則的にオフレコです。本セミナーで知り得た情報は、参加者がその問題に対して見識を深めるため以外の目的に使用してはなりません。よって各種媒体において論文、記事、ブログ、mixi等SNSに記載にすることや引用は不可です。情報提供者がその情報について語ったという事実さえ、明かしてはいけません。以上のセミナーの主旨とルールをご理解いただきますようお願い申し上げます。

アメニティグッズ

バスタオル・フェイスタオル・浴衣・歯ブラシが用意されています。

※フェイスタオル・歯ブラシのみ持ち帰り可能

インターネット

パソコンを持参した方は、セミナールームにてLANケーブルを使って利用できます。LANケーブルは数に限りがありますので、できる限りご自身のものを用意してください。ネットの利用を希望する場合はスタッフまでお尋ねください。

飲食物の持ち込み

持込可能です。ただし、食堂内へは宿舎内で購入したもののみ持込可能です。

喫煙について

Guest Wing内(宿泊棟)では部屋・バルコニーなどを問わず原則禁煙とします。

喫煙場所については当日事務局から伝えます。

夜間の外出について

午後10時から朝6時までの建物外への外出は、火災発生時などの緊急時を除いて原則禁止とします。

その他注意事項

セミナー期間中、他の利用者が宿舎を利用しない予定ですが、貴重品の管理にはくれぐれも注意してください。